



冬

花菜畑



秋

光明寺



夏

柳谷観音楊谷寺



春

八条ヶ池

歳時記 —四季の彩り—

- 1月 ▷初詣 ▷勸請縄・お千度詣り(走田神社) ▷勘定掛(勝龍寺) ▷市民マラソン大会
- 2月 ▷節分祭(長岡天満宮) ▷採燈大護摩供(柳谷観音楊谷寺)
- 3月 ▷梅花祭(長岡天満宮)
- 4月 ▷桜まつり(八条ヶ池) ▷春の観光まつり(長岡天満宮、乙訓寺)
- 6月 ▷ホテル鑑賞の夕べ(西代橋付近) ▷あじさいまつり(柳谷観音楊谷寺)
- 7月 ▷若葉カップ(西山公園体育館)
- 8月 ▷奉納夏祭り・夏灯籠(長岡天満宮、八条ヶ池) ▷サマーナイトカフェ (バンビオ広場公園)
- 9月 ▷名月の宴(勝竜寺城公園)
- 10月 ▷市民大運動会
- 11月 ▷長岡京ガラシャ祭(勝竜寺城公園ほか) ▷乙訓ふるさとふれあい駅伝 ▷秋のもみじめぐり(光明寺・長岡天満宮・柳谷観音楊谷寺)
- 12月 ▷バンビオイルミネーション(JR 長岡京駅前一带) ▷大晦日*変更の場合あり



中山修一記念館

“幻の都”長岡京解明に生涯を捧げた故中山修一さん(1915-1997)の記念館。長岡京の復元図や当時の発掘の様子、中山さん直筆の長岡京の条坊図などを展示しています。



神足ふれあい町家(旧 石田家住宅)

西国街道沿いにある江戸時代末期の商家を、喫茶室や貸しスペースを設けて、整備しました。京町家とは異なる農家風の風情を今に伝えます。平成12年には国の登録有形文化財に登録されました。



柳谷観音楊谷寺

京都清水寺の開祖延鎮が大同元(806)年に創立。境内には空海の法力による独鈷水があり、眼病に効くとの信仰を集めています。初夏にはアジサイが、秋にはもみじが見ごろを迎えます。



勝竜寺城公園

暦応2(1339)年に細川頼春が築城したといわれています。天正6(1578)年には、細川忠興のもとに、明智光秀の娘・玉が輿入れしました。平成4年に整備し、現在の公園の姿になりました。



光明寺

西山浄土宗総本山。建久9(1198)年、法然上人の弟子蓮生法師(熊谷次郎直実)の開基とされています。晩秋には、境内の参道両側にあるもみじが色鮮やかに紅葉し、訪れる人々を楽しませます。



乙訓寺

真言宗豊山派長谷寺の末寺。延暦4(785)年に早良親王が幽閉され、弘仁2(811)年には空海が別当に任じられています。境内では約2,000株のボタンが4月下旬に大輪の花を咲かせます。



長岡天満宮

菅原道真公が大宰府に左遷されるとき名残を惜しんだ地として知られています。朱塗りの拝殿の奥に建つ本殿は、平安神宮の社殿を移築したもので、京都府の文化財に指定されています。



八条ヶ池

寛永15(1638)年に、八条宮智親王によって造られたかんがい用のため池。春から夏にかけて、樹齢約150年のキリシマツツジが満開になるほか、梅や桜、アヤメ、ショウブ、紅蓮が次々と見ごろを迎えます。

四季の花々と 歴史が彩るまち

四季折々に様々な表情を見せる長岡京市。春は八条ヶ池のキリシマツツジと乙訓寺のボタン、初夏には柳谷観音楊谷寺のアジサイ、秋は光明寺の紅葉。季節の花々と歴史の薫りが、訪れる人を楽しませます。



トマト

市の奨励作物のトマト。完熟で収穫され、トマト本来のおいしさが味わえるとあって、路地販売や朝市でも人気です。最近では、ミディトマトのブランド化にも取り組んでいます。



花菜

切り花として栽培されていたものを品種改良し、食用にしたもので、12月～5月に出荷されます。花が咲く前のつぼみの部分を食し、栄養も豊富です。「京のブランド産品」に指定されています。



ナス

長卵形で、ツヤが良く、皮は柔らかく、調理の幅が広いのが特長。夏秋用のナスの代表品種である「千両2号」は、市内にあった研究農場で開発され、昭和39(1964)年から本市を中心に全国に広まりました。



タケノコ

春の味覚の王者ともいえるタケノコ。農家の丹精と土質の良さが相まって、色白で、軟らかく、えぐみが少ないのが特長です。独特の風味と歯触りを楽しむことができます。

都市近郊にありながら、のどかな田畑や竹林の風景を残す長岡京市。本市を代表するタケノコやナス、花菜など、丹精込めて育てられる「うまいもん」をご紹介します。

長岡京市の うまいもん